

⑥-1 市域全体の地域拠点を確かめる <図書館サービスの施設拠点とBM入ーション配置を考える>

□ 地域の徒歩圏中心拠点を仮定して社会サービス(図書館全域奉仕)を考える

- ・居住地の徒歩圏で市域を眺めると中心施設6程度を囲む16の地域ユニットが読み取れる。
 - ・BMサービスポイントとして想定される下表全施設数は(全て要請があれば)84箇所ある。
 - ・全施設に月1回、施設以外のポイントを加えて集計すると最大で月96箇所の訪問数に納まる。
 - ・BM1台、週4日、16コース運行で、訪問96箇所の対応ができる。(配本車運行も併行されるか)(全施設からの要請までの時間的余裕や歩留まりを読むと、施設別の月訪問回数の調整増も今後可能)
 - ・公民館図書室へは図書補充と駐車場での貸出し。新中央館徒歩圏はBM奉仕の割愛が可能

- ※ B Mサービスからの仮説
- 自動車図書館(とくしま販売方式)のサービスユニット(施設訪問6)を、徒步圏域で16コースと仮定した。
- 平日4日運行(月に16日運行)
- 日6ポイント訪問(AM2+PM4)
- 月に一度訪問:最大96ポイント
- 月に二度訪問:最大48ポイント
- 公的施設の門口出店をイメージ
(学校幼稚園は玄関庇下か校庭脇)
- 私の施設は希望要請で訪問
- 団体貸出は配本車+コンテナ式
- デパートや幼稚園や学校玄関、駐車場サービスで個人もサービス
- 参考例示、伊万里・君津・福知山など実践市には司書職員1+高齢者雇用運転手1の二名運行もある。

	施設名	所在地
公民館等 7	中央公民館(図書館中分館)	余部下1167番地
	南公民館(図書館南分館)	森1005番地の3
	西公民館(郷土資料館)	南田辺1番地
	加佐公民館(図書館加佐分館)	志高1005番地
	大浦会館	中田459番地 ★
	城南会館	女布406番地の3
	まなびあむ	溝尻150番地の11
	あそびあむ	浜2022番地

	施設名	所在地
デ イセーピスあっぷる	田中町15番地の11	★
デ イセーピス生年俱楽部東舞鶴	森本町24番地の1	
デ イセーピスセンター・グリーンプラザ博愛	市場390番地	★
デ イセーピスセンター・ハーティ	南浜町1番地の3	
デ イセーピスセンター・やすらぎ	安岡1076番地	★
舞鶴市中デ イセーピスセンター(中総合会館)	余部下1167番地	
舞鶴市南デ イセーピスセンター	行永1090番地の30	★
リハブライド東舞鶴	森217番地の3	★
デ イセーピスセンター・安寿	上安481番地	
デ イセーピスセンター・ゲイスク・イルまいづる	布敷52番地の1	★
デ イセーピスセンター・こころ	七日市349番地の1	
デ イセーピスセンター・真愛の家	上安1697番地の36	
デ イセーピスセンター・せいほう	引土19番地の5	
ニチイケアセンター・舞鶴	喜多1105番地の1	
舞鶴市加佐デ イセーピスセンター(由良川学園)	八田962番地	★
23 デ イセーピス・カーサ・セグレタ	市場60番地	
デ イセーピスさくらプラザ	倉梯中町3番地の2	
デ イセーピスセンター・ふれあい	平1558番地の1	★
荒木クリニック デ イセーピスセンター・なごみ	京田18番地の1	
デ イセーピス生年俱楽部舞鶴	寺内88番地	
ハーモニー・デ イセーピスセンター	竹屋98番地の1	
みぢかなデ イセーピス田園	志高553番地の5	★
リハブライド西舞鶴	京田63番地	

	施設名	所在地
幼稚園	舞鶴聖母幼稚園	上安久381番地
	倉梯幼稚園	七条中町8番地の2
	森の子ら幼稚園	丸山口町24番地
	橘幼稚園	浜682番地
	シオン幼稚園	浜40番地
	中舞鶴幼稚園	余部上116番地の3
	三鶴幼稚園	引土282番地
	志楽幼稚園	田中町39番地の1
	★	

保育所・こども園 18	池内幼稚園	布敷120番地の3	★
	朝来幼稚園	吉野499番地の3	★
	タンポポこども園	泉源寺223番地	★
	平 こども園	中田440番地の1	★
	昭光保育園(こども園)	浜211番地	
	さくらこども園	七条中町8番地の20	
	やまもも保育園	溝尻1106番地	
	朝日幼稚園(こども園)	浜796番地	
	森の子ら幼稚園(こども園)	丸山口町24番地	
	うみべのもり保育所	浜2022番地	
	中保育所	余部下1063番地	
	東山こども園	倉谷961番地の1	
	相愛こども園	魚屋234番地の1	
	ルンビニこども園	寺内90番地	
	なかすじこども園	公文名344番地	
	永福こども園	公文名63番地	
	永福こども園 城屋園舎	城屋837番地	★
	舞鶴こども園	円満寺100番地の4	
	八雲保育所	丸田27番地の1	★
	岡田こども園	志高70番地	★

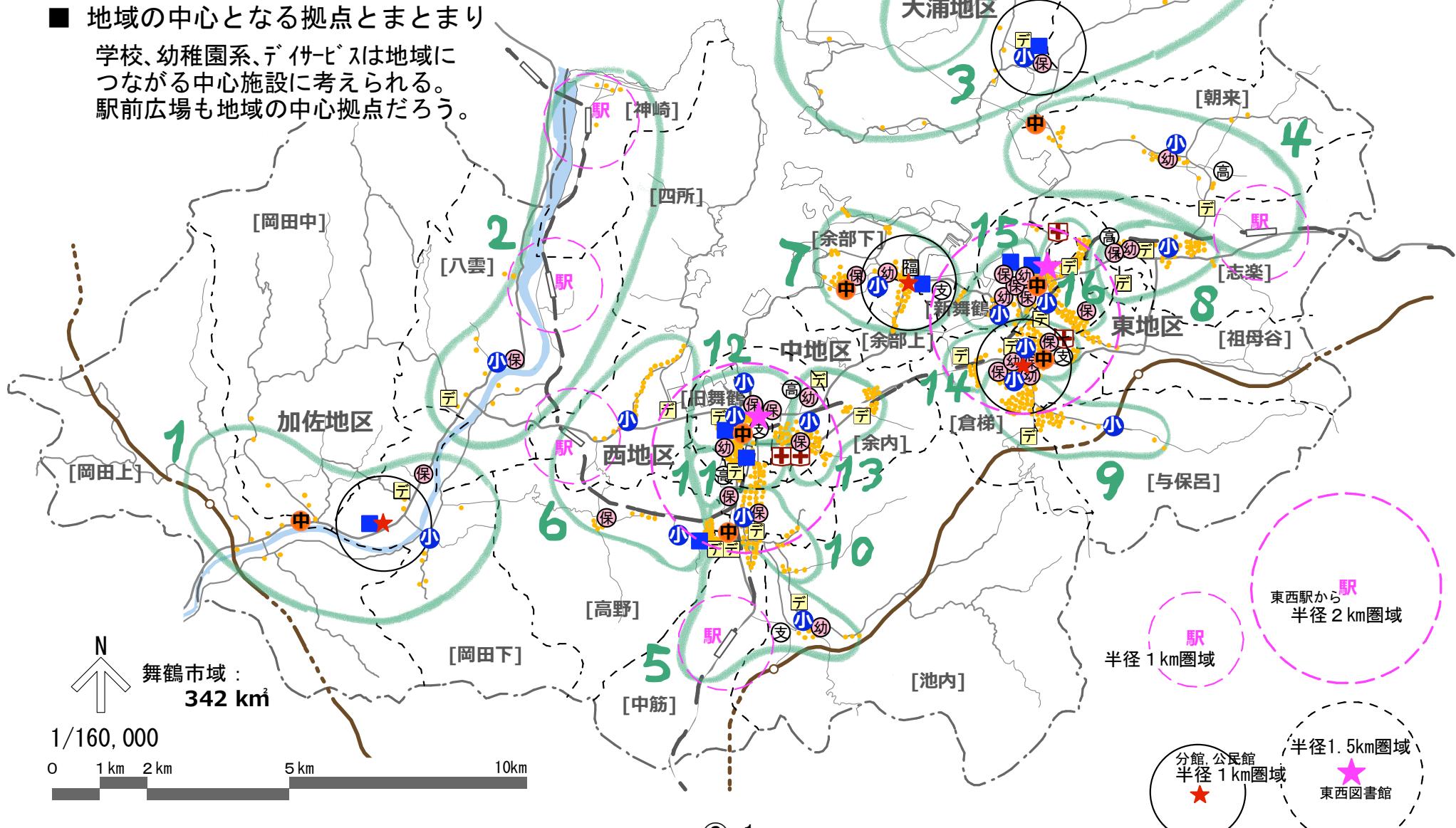
★は図書館から遠隔地への施設	
施設名	所在地
新舞鶴小学校	溝尻1200番地の4
三笠小学校	桃山町15番地の1
倉梯小学校	行永291番地
倉梯第二小学校	行永7番地 ★
与保呂小学校	与保呂48番地 ★
志楽小学校	小倉60番地 ★
朝来小学校	朝来中545番地の1 ★
大浦小学校	平1583番地 ★

中学校	明倫小学校	北田辺128番地の1
	吉原小学校	東吉原613番地
	余内小学校	倉谷30番地
	池内小学校	布敷120番地の1 ★
	中筋小学校	公文名490番地
	福井小学校	下福井702番地の1 ★
	高野小学校	高野台1番地の1 ★
	岡田小学校	久田美930番地 ★
高等学校	由良川小学校	丸田74番地 ★
	青葉中学校	行永1810番地
	白糸中学校	浜840番地
	和田中学校	和田640番地の4 ★
	城南中学校	京田30番地
	城北中学校	南田辺128番地
	若浦中学校	大波下18番地 ★
	加佐中学校	岡田由里20番地 ★



■ 地域の中心となる拠点とまとめ

学校、幼稚園系、デイサービスは地域につながる中心施設に考えられる。駅前広場も地域の中心拠点だろう。



⑥-2 交通システムから地域拠点を確かめる <図書館サービスの施設拠点とBMステーション配置を考える>

□ 自動車中心の生活習慣をふまえた地域サービス計画が必要。

現状の通勤通学は68%が自動車利用、公共交通利用者は14%に過ぎません。

郊外公共交通の利便性、世帯人数低下と送迎、高齢者の免許返納増加が今後の地域課題です。※出典「舞鶴市地域交通計画」
令和3年

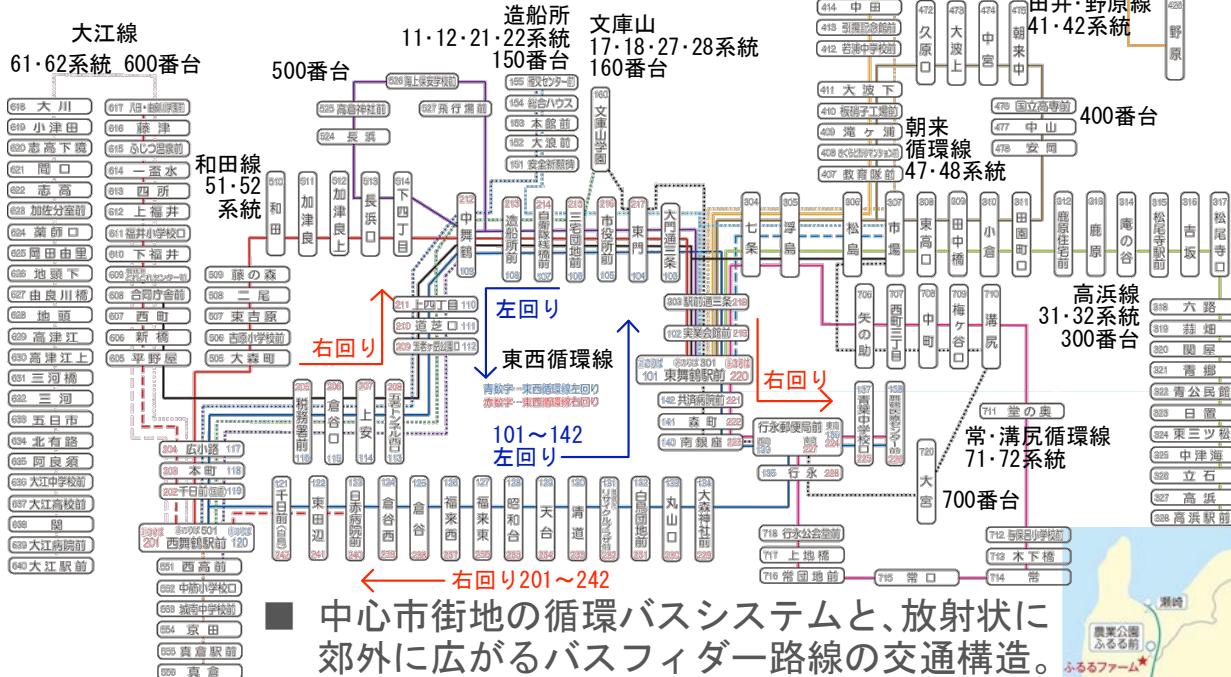
令和3年「舞鶴市地域交通計画」では、公共交通再整備の方向性が示されました。(右図式)中心市街地へのアクセシビリティの向上方針が示されています。

□ 地域拠点には地域公共交通システムが張り巡らされている。

郊外部のバス運行回数は少なく料金が高いことが指摘され、利用率低迷の循環状況にある。図書館アウトリーチサービス計画の視点からは、これらの交通拠点近くに出掛ける方策があります。

□ 中心市街地(中央図書館)へのアクセシビリティ向上が求められている。

全市郊外地域の人々にとって、身近なサービス拠点とともにセンターへのアクセシビリティが利用の必要条件です。JR両舞鶴駅の交通結節点としての求心性の高さは確認されています。交通利便性から見た中央図書館の適地性は、①中心市街地の地域公共交通(鉄道・バス)の結節点・焦点がふさわしい。②幹線的道路に直結して明快で、駐車場渋滞が起きない周辺道路状況がよい。③充分な駐車場用地がとれ、災害や水害でサービスやアクセスが破断しない。などが求められ、交通計画との協調が図書館計画に必要です。



■ 東西2駅の「二極連携的な中心」性は歴史的環境構造。バス路線と骨格道路の結節点が地域環境の焦点となる。

● 駅乗降客数(H28)/年

JR 真倉 : 9,000

東舞鶴 : 551,000

西舞鶴 : 531,000

松尾 : 17,000

京丹後鉄道

西舞鶴 : 146,000

四所 : 10,000

東雲 : 5,000

丹後神崎 : 6,000

● IC通過台数(R元)/年

出典:統計資料

● 観光入込客数247万人/年(R1)

車利用来街が多い。



舞鶴市地域公共交通計画の基本理念と公共交通のあり方

市民の求める公共交通の役割

- ・子ども、学生、高齢者、免許を持たない人が出かけるための移動手段
- ・将来、運転免許証を返納したときの移動手段
- ・市民の買物や通院のための移動手段
- ・いつでも利用できる安心感

↓ 今後とも舞鶴市にとって公共交通は必要

基本理念

公共交通を将来にわたり維持し活用する

↓ 舞鶴市にとっての公共交通のあるべき姿

公共交通のあり方

舞鶴市第7次総合計画における

5つの【目指すべき将来のまちの姿】の実現に寄与

- ①便利な田舎暮らしができるまち
 - ・公共交通のサービス水準の底上げを図り、生活の質の向上を図る。
 - ・舞鶴版コンパクトシティの形成を目指す。
- ②市民(事業所)が元気なまち
 - ・どこへでも外出できる環境を確保する。
- ③住み続けたいと思えるまち、人が集う魅力あるまち
 - ・市民の安心のため、これからも公共交通を維持する。
 - ・来訪者にとっても移動しやすい環境づくりを行う。
- ④新たな技術を導入した未来型のスマートなまち
 - ・先端技術を積極的に取り入れ、市民にとって利便性の高い移動手段の提供を目指す。
- ⑤多様な連携のもと、持てる資源を効果的に活用するまち
 - ・今ある経営資源を最大限有効活用することにより、公共交通の強みを活かした利便性の向上を図る。
 - ・市民のアイデアなどを交通施策に活かす。

⑥-3 中心市街地の地域拠点を確かめる <図書館サービスの施設拠点とBMステーション配置を考える>

- 20年将来も、東舞鶴、西舞鶴両駅を中心に公共公益・商業施設が集積している。全民民にとって中心市街地は求心性、集客性、象徴性を有する拠点地域である。
 - ・市内全域に居住する市民にとって、中心市街地のなかの中心性については、東と西の駅界隈について甲乙をつけがたい。
 - ・新中央図書館の立地評価も、交通計画的には東と西の駅近について甲乙つけがたい。
- この二極の中心地域は鉄道や循環バスで連結され、車移動も至近明快である。交通移動手段の利便性向上を踏まえれば、一体的に連携する地域と捉えられる。
 - ・中心市街地活性化の施策として、中心部の循環バスを小型化してワンコイン料金で運用する事例が多くある。施設配置数を集約して交通ネットワーク投資と相関させている。
 - ・ワンコインバス：浦安市一律100円。茅ヶ崎市一律150円。
- 舞鶴市全域への図書館サービスシステムのセンター（中央図書館）の配置を構想するとき、東西両駅に近接する敷地があれば、交通計画上の適地になる。
 - ・公共交通や自動車での通勤や通学を日常とする青壮年の働き盛り世代にとっては、一定数の駐車場規模を有するターミナル駅近くの中央図書館立地は魅力度が高い。
- 郵便局のような図書館サービスシステムのセンターとしての適地性評価尺度は、図書館施設計画で整理され、これに照らして検討され最適候補地が選定される。
 - ・小規模な東西の中心図書館機能が、センターとして一箇所に集約され充実整備される方向性については、全民民的合意が得られると考えられている。
- 中心居住地域への図書館サービスは、最適でより有機的な組み立てがなされる。
 - ・中心地域への図書館サービスは、新中央図書館や公民館分館での来館型サービス、小中学校や幼稚園保育園、デイサービス老健施設など拠点施設への訪問とその門前でのBMサービスで組み立てられるだろう。
 - ・市役所行政図書室や、郷土資料館ほか社会教育施設群が中心市街地で図書館と連携して、市民に広く深い情報サービスを提供することになる。

● 大規模小売店(1000m ² 以上)
1 らぽーる (P:819台)
2 バザールタウン (P:800台)
3 ジュンテンドー西舞鶴モール店
4 ニトリ
5 ホームセンターミフネ
6 ケーズデンキ東舞鶴店 (P:113台)
7 ヤマダ電機舞鶴店
8 エディオン舞鶴店
9 アルペン舞鶴店
10 ジャパン舞鶴店
11 にしがき溝尻店
12 旬工房
13 フクヤ白鳥店
14 どれどれセンター

P 大規模駐車場と駐車台数

- ・東、西舞鶴駅界隈の公的駐車場を駐車台数とともに図中に記入した。
- ・住宅地図から商業施設の大規模駐車場を記入した。

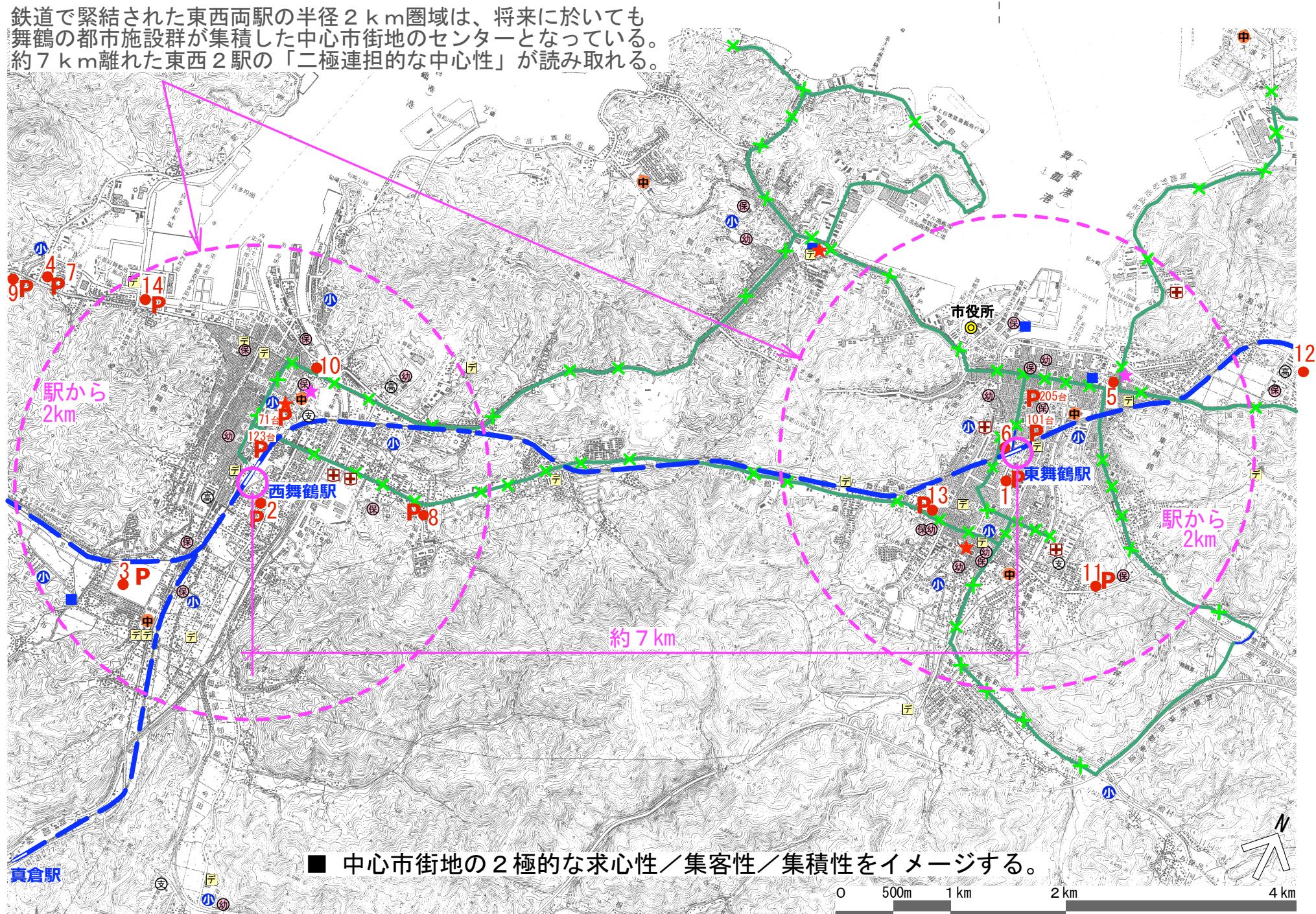
※ 公共公益施設

保育所、こども園	デイサービス
幼稚園	※介護老人福祉施設の併設が多い
小学校	病院
中学校	公民館・分館
高等学校、高専	図書館(東、西)
特別支援学校	図書館分館

— 鉄道と駅

— × 循環バスと停留所

鉄道で繋結された東西両駅の半径2km圏域は、将来に於いても舞鶴の都市施設群が集積した中心市街地のセンターとなっている。約7km離れた東西2駅の「二極連担的な中心性」が読み取れる。



⑥-4 中心市街地居住と地域拠点を確かめる <図書館サービスの施設拠点とBMステーション配置を考える>

□ 舞鶴市の総人口の動向は、減少し高齢化する（Iターンリターン誘導など何も対策がなければ）

舞鶴市の人口及び高齢化率の推移と推計を関連別紙図表で説明します。

国勢調査によると、市の総人口は昭和60(1985)年以降減少に転じ、平成27(2015)年時点では約8.4万人となっています。（令和2年10月の推計人口は7.9万人）

将来予測では、令和12(2030)年の全市総人口は約7.4万人まで減少するとされており、高齢化率も31.6%まで上昇することが見込まれ、今後も人口減少・高齢化が進行していくと予測されています。

□ 中心市街地の人口密度が高い地域は、将来的に縁辺に移動偏在する

舞鶴市における平成22(2010)年の人口密度（国勢調査）及び 令和22(2040)年での将来人口密度（予測）の推移を別紙の図に示します。

平成22(2010)年の時点では、西舞鶴駅と東舞鶴駅を中心とする市街化区域内に人口が集中していますが、中心市街地よりも市街化区域の縁辺部の人口密度が高くなっています。

また、西舞鶴・東舞鶴両地区の旧来の中心市街地とは反対側に大型商業施設が立地したこと等により、その後背地でも人口が増加しているものと考えられます。

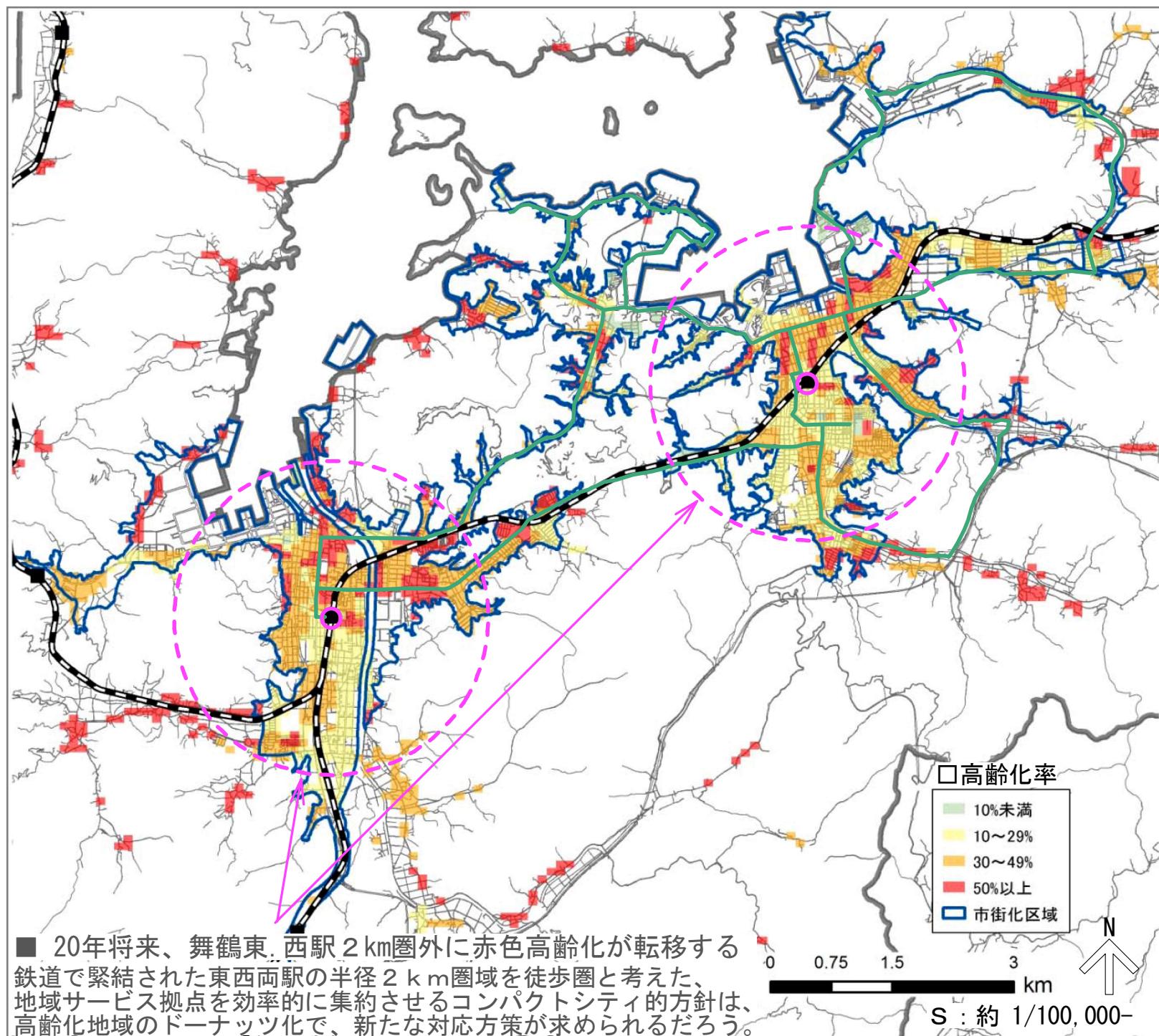
令和22(2040)年時点では、一部の地域を除き市街化区域内全体で「人口密度が低下すると予測」されており、特に西舞鶴・東舞鶴両地区の旧来の中心市街地ではさらに人口密度が低下することが予測されます。

□ 中心市街地の高齢化の推移変化

平成22(2010)年からの「令和22(2040)の高齢化(予測)の状況」を下の図に示します。

「中心市街地の高齢化率が高く、駅2km圏外にも偏在し、今後この傾向は進展」しそうです。市街化区域周縁部や市街化区域内においても、高齢化率は一層高まると予測されます。

■ 20年程将来の中心市街地の居住と高齢化の分布をイメージする。



※出典：

舞鶴市立地適正化計画(平30)
資料編より

※参考：

舞鶴市人口ビジョン(令2年3月)

※中心市街地では、これまでの集約的居住の構造が弱まり、やや外周部の商業施設の立地に引き寄せられた集約的居住分布の構造に変化推移していく動向が予測されている。

これらにともない、公共公益サービスや施設配置の利用率変化も予想され、施設配置や利用満足度の動向にも継続的な留意が必要になるだろう。

⑥-5 地域拠点と支援施策を聴く <地域への行政施策と視点>

□ 資産マネジメント推進課

日時：令和3年11月12日(金)午前11:00～
出席：舞鶴市総務部資産マネジメント推進課：岩田課長 推進課建築係：佐野係長
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長、計画同人：寺田、小林

- 「舞鶴市公共施設再生基本計画(平成26年)と公民館などの現況について
 - ・東公民館：まなびあむに移転、文庫山学園と統合済み。
 - ・南公民館：耐震診断で補強不要と判断された。空調設備も改修済みである。
 - ・西公民館：西総合会館に移転済み。
 - ・郷土資料館：西総合会館に移転済み。同基本計画の記載状況は対応改善されつつある。

○東図書館、西図書館 現施設の維持について

- ・フロン2020年問題をかかえている。空調機の故障が発生すると交換部品が無く、故障した時点では建物が使用不能となる可能性がある。
- ・空調設備の全面交換を行うと、東西図書館とも数億円単位の改修費が発生する。(室外機、室内機、冷媒配管の交換、機器と配管交換に伴う壁・天井等隠蔽部分の改修)
- ・トイレや雨水漏水も問題とされており、改修維持にはかなりのコストが発生する。
- ・新中央図書館の開館準備期間は、資料の装備や職員体制の変更のため東西図書館がそれぞれ数ヶ月の休館をする必要があると想像される。

○東と西舞鶴駅前の新中央館候補とされる敷地について

- ・都市計画法上の要件、敷地状況成立経緯、まちづくり、図書館計画論、などの観点から今後、比較検討し適地評価をしてゆくことになるだろう。
- ・埋蔵文化財調査、浸水地震ハザード対応、地盤調査(ボーリング)、駐車場整備規模、接道条件など技術的対応の必要度・負担性の検討も必要だろう。

○図書館サービスの現況と全市サービスについて

- ・全市的に自家用車利用の割合が高い交通状況だが、高齢化で免許返納をする方が多くなり交通弱者が増えていくと予測される。公共交通や全市サービスに関する検討は必要だろう。

※舞鶴市は昼夜人口の変化は少ないが自衛隊や海上保安庁の学生、高専の学生など、人口に入るがあまり敷地外に出ない方もいる。(人口の4～5%)貸出率の低さに影響しているか。
→サービス掘起こしも考えられる。

□ 人権啓発・地域づくり室 地域づくり支援課

日時：令和3年11月12日(金)午後3:30～
出席：舞鶴市市民文化環境部地域づくり支援課：飯田課長
生涯学習支援係：佐藤係長、地域づくり支援課：亀井係長
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長
寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○地域拠点としての「公民館」の今後のあり方と利用のようす

- ・公民館は7つの中学校区に1か所づつ配置されていて、現状の場所が最適かはわからないが、公民館を拠点として地域づくりを進めていく方針である。
- ・南公民館：活動も利用も多い。古くは村役場であったので愛着がある利用者もいる。
- ・大浦会館：地区の人口減少が課題であり、昨年からゆめプロジェクトをスタートさせ空家の活用などによる新たな定住を呼び込む活動等を行っている。発電所ができてからは道も良くなり、農家レストランなど誘客施設もできている。
- ・城北中学校区：中学校と協働でフジバカマを植えてアサギマダラを呼ぶ活動等行っている。

○「公民館図書室」(一部は図書館の分館)と図書館サービスポイントについて

- ・中分館、南分館、加佐分館とも資料は図書館と共通書誌化されておらず、独自の貸出に留まっている。
- ・将来的に、図書館のサービスポイントとして図書館資料の貸出予約・返却ができるか。
→公民館職員の兼務辞令が必要だが、体制見直しの可能性はある。
- ・城南会館はロビーに図書コーナーがあり、中学生が勉強に利用している。
- ・まなびあむは、スペースの拡張は現状の利用から見ていくととりづらい。
- ・あそびあむは、うみべのもり保育所の隣にあり、絵本との親和性も高いのではないか。
→今後、状況が変化していく中で、図書館サービスからみた地域拠点<分館>見直しの可能性は必要であり、ありうるのではないか。また、自動車図書館<BMサービス>が行われる場合、サービスポイントの研究で、現状の地域拠点の研究は必要になる。
- ・図書館アウトリーチサービス研究で、地域づくり支援課と今後も連携してゆきたい。

※「近隣住区理論」では、最小の地域コミュニティ規模を、近隣住区と呼び、一中学校区を人口1万人として該当させる。近隣分区は人口5000人小学校区。公共施設や行政サービスを配置させる時のユニット単位として都市地域計画は組み立てられる。

⑥-5 地域拠点と支援施策を聴く <地域への行政施策と視点>

□ 福祉企画課 □ 障害福祉課

日時：令和3年11月12日(金)午後4:00～
出席：舞鶴市福祉部福祉企画課：松本課長 舞鶴市福祉部障害福祉課：島田課長
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長、計画同人：寺田、小林

○図書館の設備、サービスについて（計画同人より）

- ・新しく中央図書館を整備すると、バリアフリー条例や法律に合致した施設となる。その他に、対面朗読室や録音室、点字プリンター等を使える障がい者サービススペースを計画する。施設計画条件としてどのようなものが求められるのか、市民ボランティアグループにも聴きたい。(基本計画だけでなく設計でも聞き取りがある)
- ・東図書館・西図書館には対面朗読室があるが、現在は使用されていない。そのあたり、

○福祉系市民ボランティアの活動について

- ・ボランティアグループは、公民館のボランティア養成講座などから活動を始めている。障がい者向けグループの主な活動場所は、公民館か身体障害者福祉センター。
- ・障がい者向け活動として手話サークル、朗読、声のたよりの発行、点訳などがある。

○ボランティアグループからの要望書きとりについて

- ・図書館サービスや中央図書館への要望に関するアンケート等の協力をボランティアグループに、障害福祉課からも要請することは可能である。

□ 図書館での活動が想像される市民ボランティアグループの状況

グループ名	主な活動場所	活動内容
舞鶴手話サークル「つたの会」	身体障害者福祉センター	手話の学習と交流、聴覚障がい者問題を学ぶ
朗読ボランティア 木曜会	身体障害者福祉センター	声のたより「やまびこ」のテープとCDを発行
むつぼし会 ※休止状態	身体障害者福祉センター	点字啓発活動、点字翻訳活動、障がい者との交流
舞鶴要約筆記サークル「みみかき」	身体障害者福祉センター	小学校等の福祉教育、講演会要約筆記
朗読ボランティア こだま会	中総合会館、要請場所	福祉施設へ朗読訪問、「朗読入門講座」の実施

※出典：ボランティアまいづるPART8(令和3年3月)

※福祉企画課では、デイケアの状況を伺い『舞鶴市介護サービカート』高齢者の保健・福祉サービス利用の『びき2021』をいただいて、地域拠点としての「通所介護」拠点リストを把握できた。

※基本計画では、現代の図書館の通常の障がい者サービスや資料施設について触ることになる。設計段階では、設計条件の確認時点や素案を下敷きにした意見聴取が行われると考えられる。担当課との協力連携を要する。

※この他に、点訳ボランティア「てんてんの会」がボランティア養成講座で活動中。

□ 観光まちづくり室 観光振興課

日時：令和3年11月12日(金)午前9:00～
出席：舞鶴市産業振興部観光まちづくり室観光振興課：山内課長、森下係長
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長、計画同人：寺田、小林

○舞鶴市の観光来街者の行動について（新中央図書館の位置と、図書館の来街者支援の視点で）

- ・観光来街者は、8～9割が、自動車で来街する。(東舞鶴駅、西舞鶴駅からが主でない。)
- ・大きな来街者向けの駐車場の位置が、彼らの拠点になる。
- ・「舞鶴港とれとれセンター」は駐車場が足りない状況にある。遊覧船就航の実証実験も始まり、今後は海沿いに新たに駐車場が必要ではないかと思っている。クルーズ船乗り場も整備された。
- ・天橋立周辺への観光は、宮津の宿は食事付き多いため、西舞鶴のビジネスホテルを利用する方も多い。(西舞鶴駅周辺は、宿泊者や乗換者にとってはインバウンドの拠点)
- ・敦賀まで新幹線が開通すれば、新幹線から京丹後鉄道に乗り換えて天橋立(宮津)に移動する観光動態インバウンドの流れが予測される。
- ・東舞鶴は赤レンガ、西舞鶴はとれとれセンターといった「海沿い」が主な観光目的となっていて、海沿いから鉄道駅側に観光来街をどう流すかが課題である。
- ・城跡しかない田辺城単独での集客力は弱いため、城下町エリアでの観光振興策を行っていく予定。(田辺城下歴史散歩、寺町スタンプラリーなど)
- ・ビジネスホテルの稼働率は比較的良好が、6割が仕事利用で観光は1割程度である。
- ・神崎は電車で行けるビーチがあるので、車を持たない若者にも人気がある。ホフマン窯は舞鶴文化教育財団が管理していて常時公開はしていない。申込みで見学対応している。

○図書館にできる観光振興政策バックアップの可能性について

- ・話題性のある図書館ができれば集客につながるだろう。赤レンガカフェ+図書館など。
- ・図書館が地域学やマイクロツーリズム(市民が街を観光する)の起点となることに期待。
- ・図書館と田辺城資料館・郷土資料館が合体していれば、地域学、マイクロツーリズム、観光客のいずれも期待できると考える。
- ・現在の東西図書館のある場所は、来街者の動線上にない。舞鶴観光情報を得られる場所として整備されれば、可能性は広がるだろう。今後も情報を共有してゆきたい。

※図書館の地域資料コーナーでは、舞鶴市の地勢や産業観光情報を体系的に展示表現することになるだろう。また郷土資料館の学芸委員の助けを得て、歴史資料の集積とサテライト展示を、時に、郷土資料館の企画展示を開催することもイメージされる。深く舞鶴を知る情報センターの役割を担いたい。

⑥-5 地域拠点と支援施策を聴く <図書館類縁部門/機関への訪問リスト>

□図書館と公民館、類縁機関

■東図書館 2021年10月22日 竹之内館長 河田主任	■西図書館 2021年10月21日 西駄館長 岡山主任	■中分館 2021年10月21日 三浦氏	■南分館 2021年10月22日 前羽館長 澤野氏	■議会図書室 22年1月訪問して、 行政内情報拠点の 「求心性/充実性」 分館化の可能性を 確かめたい
■加佐分館 2021年11月10日 澤田館長 眞下司書	■大浦会館 2021年11月11日 澤田氏 河合司書	■まなびあむ 2021年10月22日 福田館長	■郷土資料館 2021年11月11日 吉岡館長	■あそびあむ 22年1月訪問して、 地域拠点としての 「求心性/スペース」 分館化の可能性を 確かめたい

□学校図書館と小中学校教育研究会

■岡田小学校 2021年10月21日 野田校長	■朝来小学校 2021年10月22日 古谷先生 櫻井先生	■余内小学校 2021年10月21日 岡西先生	■白糸中学校 2021年10月22日 谷先生
■三笠小学校 2021年11月10日 畠本先生 金岡先生	■城北中学校 2021年11月12日 小谷先生	■小学校教育研究会 図書館教育部会 2021年11月10日 ■三笠小学校 畠本先生 金岡先生	■中学校教育研究会 図書館教育部会 2021年11月12日 ■城北中学校 小谷先生

□行政グループヒアリング

■学校教育課 2021年11月12日 森下課長 岡本課長	■地域づくり支援課 2021年11月12日 飯田課長 佐藤係長 亀井氏	■福祉企画課 2021年11月12日 松本課長 ■障害福祉課 2021年11月12日 島田課長	■都市計画課 2021年10月22日 坂田係長 栢分氏
■観光振興課 2021年11月12日 山内課長 森下係長	■資産マネジメント 推進課 2021年11月12日 岩田課長 佐野係長		

□市民利用者やグループ、図書館類縁ボランティア、グループにも
できればお会いして、ヒアリングをしたい。